

令和元年度 土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	<p>土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。</p> <p>(1) 豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します</p> <p>(2) 自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します</p> <p>(3) 複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます</p> <p>(4) 読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います</p> <p>(5) さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します</p>
-----------	---

本校の特長及び課題	<p>平成31年度学校教育方針『他者を敬う優しい心を有し、自ら考え、自ら行動し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しつつ、学園からいじめを根絶する』ために以下の3点を基本方針に据える。</p> <p>1. 夢を実現する確かな『学力』の育成</p> <p>2. 世界に向かって発信できる『国際力の育成』</p> <p>3. それぞれの分野で、リーダーとして、たくましく活動でき、他者を思いやる優しい心のある『人間力』の育成</p> <p>これらの方針を実現するための実践項目として、次の4点を挙げる。</p> <p>①基本的生活習慣を全学年、全クラスで確立</p> <p>②他者を敬う優しい心を育む指導の推進（『いじめ』の撲滅）</p> <p>③「学習活動」を軸にした進路指導を強力に展開</p> <p>④日常の教育活動が生徒募集に直結することを念頭に取り組む</p> <p>また、昨年度引き続き日本大学45%前後の進学者とともに、国公立大学15%以上、難関私立大学25%以上、海外進学者10%前後を目指すため、課外を実施していく。</p>
-----------	--

令和元年度の実績結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
	・年間行事計画の立案と調整	年間行事については、芸術鑑賞会の大幅な見直しを図った。特に、海外研修時に日本の歴史だけでなく伝統文化を発信できるようになるために、伝統芸能などを充実させた。また、入試改	

<p>教育活動 (教務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間割管理 ・ 各種帳簿管理 ・ テストの運用 ・ 課外の計画運用 ・ 教員研修の計画実施 ・ 学校評価の実施 ・ 学校日誌の作成 		<p>革も視野に入れ、進路獲得に向けて必要な模試の再編を行った。教科主任を中心とした学習指導部と教務部の協力により、時間割を作成するが、臨時時間割など急な対応については、その都度教職員の協力のもと、円滑に運用することができた。</p> <p>帳簿が不足しないように在庫管理も行いつつ、転入・転出の処理も含め学年と協力し正確に処理した。</p> <p>例年通り、安定した運用ができた。特に、コロナウィルスの影響で試験を実施できなかった学校に比べては恵まれた日程であったが、その後の成績処理など緊急の課題にも適切に対処できた。</p> <p>課外については、新しい学力観に根差したものを含むなど大幅な変更も加わり、より本校らしい課外が運用できた。今後は、途中で出席者が減らないような工夫が必要と考えている。また長期休暇期間の宿題をやろう課外は盛況であった。</p> <p>教員は、いきなり授業を持つ職種であるため、研修の機会がOJTに限られがちである。次年度からは、新任教員を中心に組織的に研修を行う予定である。</p> <p>昨年度から年2回の学校評価の実施に変え業務の円滑化を図ったが、コロナウィルスの影響で第2回が紙面でのやり取りとなってしまう残念な結果となってしまった。</p> <p>臨時休校、学級閉鎖等、予定外の事態にも対応できた。</p>	A
<p>学校生活 への配慮 (生徒指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画の作成と実践 ・ 日常生活の指導 ・ 清掃分担の計画運用 ・ いじめ対策 		<p>・ 年間指導計画、安全計画を作成し目標の明確化に努めた。その一方で、週報などでの周知徹底がなされていなかった。学年団の協力の下、登下校の指導を含め安全に配慮することができた。制服の着こなしについては、相変わらず後期課程で問題が散見されており、今後も対策を続けていく。</p> <p>また、前期課程での友人間のトラブルについては、各学年もとも力を入れて対応していた。</p> <p>清掃分担において、長期の行事、6学年の自主登校期間なども混乱無く実施できた。</p> <p>生活実態調査を生徒、保護者にも実施し、その都度、会議を招集することで共有をはかり、いじめの芽の段階から対応することができたが、個別対応の面では学年ごとに課題も散見された。</p>	B

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動全般の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の運用については、生徒たちが主体となり留学生送別会を含め、主体的に活動することができた。 また、選挙活動については、年々素晴らしい形になっている。 	

<p>生徒会・部活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンハウスの計画と実施 ・スポーツデイの計画と実施 ・部活動の管理と運営 ・スポーツ大会の計画と実施 ・ボランティア活動の計画と実施 	<p>生徒総会がコロナウィルスの一件で延期になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OpenHouse では、各コンテストの決勝など対外的にも本校の教育活動をアピールすることができた。過去最高の最高者数になり、学校全体が活気に満ち溢れた。 ・SportsDay では、午前中、雨の影響で行進のみ実施できなかったが右靱桜グラウンドでの実施が円滑に行えるようになり、保護者会の協力があつたものの送迎でトラブルがあつた。 ・部活動では、個人競技ではあつたが陸上部の生徒が活躍し、全国大会に参加した。文化部でも鉄道研究会をはじめ活性化してきている。 ・コロナウィルスの影響で実施できなかった。 ・ボランティア活動は、今後の入試改革に伴うポートフォリオにしっかりと記載できる内容への改善が望まれる。 	<p>A</p>
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する各種調査の実施 ・進路講演会の実施計画 ・高大連携の促進活動 ・進路情報の収集分析と公開 ・3つの進路実現のための諸活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の情報処理室と連携し、受験大学及び方式を一元管理し、出願関係資料の作成可否データ処理を行った。 ・進路講演会では、学年と協力することで、生徒対象や保護者対象で学年の希望に応じ、月1～2回程度実施している。 ・CPCを7時半から開室し、毎朝生徒が自学自習を行う環境を作った。 ・スタディアプリを導入しICTを活用した指導を展開したが、学年や教科により活用に差が出ている。 ・現時点で、国立大学の後期日程の結果は出ていないが、わずか80名にも関わらず、日本大学の合格率をはじめ、難関私大の合格実績を挙げた。 	<p>B</p>
<p>保健・衛生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な健康診断の実施 ・健康管理への配慮 ・教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康診断については、学校の先生方と連絡を密にして計画し学校行事として組み込み実施にいたっている。 ・健康診断を通じて健康寿命を延ばす活動を進めている。 ・カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していきたい。 	<p>B</p>
<p>図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書案内の充実 ・図書館活用率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会では、各学年で取り組んでいる読書推進の動きが活性化し、校内での読書指導が活発になりつつある。 ・新書など読書の推進を行っていくため、道徳や総合的な学習などで紹介を行っていった。ただし、学年により差が生じている点を改善していきたい。 	<p>B</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・相変わらず、受験参考書を中心に、不明図書の増加が問題となっている。 	
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・1097名の受験者と145名の入学者確保 ・学校説明会の実施 ・多岐に渡る学習履歴の生徒の選別 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺私立の生徒数減少に対して145名を確保した。県南の私学の中では、江戸取、茗溪、土浦中等の3校が中心となる形が継続している。 ・オープンスクールをはじめとした教員と本校生徒、そして受験生が触れ合える体験参加型の広報が功を奏した。また、保護者と教師の会の地区会による口コミが大きな影響力を持った。 ・ISAT,CSATに続き運用力入試で優秀な受験生が増えた。一般入試で県外を含め、評判が広がり入学者増につながった。 ・水戸地区からの入学者も増加し、茨城、千葉で受験生入学者とも増加した。 	A

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針の浸透 ・校務分掌機能の円滑化 ・教員管理 ・企画管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針に従い、適切に各分掌と情報共有し、指示を出すことができた。 ・校長の指示のもと、副校長の指示・助言に従い、教頭、副教頭、主事が情報共有をしっかりとすることができた。 ・教員の業務を評価分析し、次年度の教育活動に生かせるよう指導助言を与えた。ただし、勤怠面で振替休暇などの消化でなかなか休みを取れない現状が散見された ・行事に関わる折衝、対外的な対応を含め、予算、人的資源の配置などを行った。 	A

庶務	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、環境美化の推進 ・保護者と教師の会の充実 ・同窓会組織の運営 ・各儀式の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室内の会議室、学習スペース、給湯室を中心に美化に努めた。教員の机上については年度末に近づくに従い、整理できていない状況が目立った。 ・引き続き、保護者と教師の会では、地区会に教員を参加させることで、直接的な言葉だけでなく多くの情報を共有できた。 ・同窓会の活性化が次の課題として目立っている。 ・入学式、卒業式に対して入念な準備と折衝を行った。卒業式がコロナウィルスの影響で縮小され、保護者の方が参加できない残念な結果になった。VTR等を早急にDVD化することで、 	A
----	---	--	---

		当日の様子を伝える努力をしていきたい。	
学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期課程の取り組み ・ 後期課程 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習面で、二極化が生じていく時期であり、同時に生徒指導上の問題も出てくるため、対応に苦慮した。保護者の方々との協力をより一層強固にする場面も見られた。 ・ 行事などでリーダーシップを取る生徒は増加している。 ・ 学力面で問題を持った生徒に対して、課外の参加などを促してきたが、5年生を中心に課外出席率が向上してきている。抜き出し課外や StudySupli などを活用し、模試の成績をこまめに分析し対策を練った。 	B

達成 状況 評価 基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が 90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が 80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が 70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が 70%未満